

(日置郡東市来町伊作田犬ヶ原)

位置と環境

遺跡は JR 東市来駅より南西に0.6km離れた標高約66mの独立丘陵のシラス台地上に位置する。東シナ海に面した江口浜まで直線で約2 kmの位置にあり遠見番山を西に望むことができる。近接して柵城跡・向柵城跡・伊作田城跡が所在する。

調査の経緯

南九州西回り自動車道建設に伴って、県教育委員会が平成11年度から12年度にかけて発掘調査を実施した。調査面積は2,000㎡である。

遺構と遺物

旧石器時代細石刃文化期、縄文時代晩期、古墳時代、奈良～平安時代の複合遺跡で、遺構・遺物が発見された。

細石刃文化期は細石刃核・細石刃・剥片が出土した。

縄文時代晩期では、浅鉢・深鉢・石斧・石皿・石鏃・石匙が出土した。古墳時代では、成川式土器(甕・壺・鉢)がまとまって出土した。

本遺跡は平安時代の遺構・遺物が主であった。

遺構は掘立柱建物跡の総柱(3間×3間)建物が1棟に、焼土3か所、竪穴遺構8基が検出された。特徴のある遺物には、韃の羽口・鉄滓・鉄製品(刀子・紡錘車・釘)・砥石・窯壁などがみられ、遺構との関わりから製鉄に関する遺跡と想定される。竪穴遺構内には焼土・灰層がみられ、これらを裏付ける



第1図 犬ヶ原遺跡の位置

ものになる。

そのほか、彩色土器・黒色土器が多量に出土し、建物跡との関連が興味深い。

また、硫黄・焼塩壺・滑石製品・墨書土器・灯明皿・桃の炭化種子など特殊な様相を示す遺物の出土があった。

特徴

本遺跡は、製鉄に関する遺跡と想定される。隣接地の字名は金木山であり、総柱の掘立柱建物跡や焼土・灰層の検出された土坑、鉄製品の出土とともに興味を示す資料である。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「犬ヶ原遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』50 (牛ノ瀨 修)

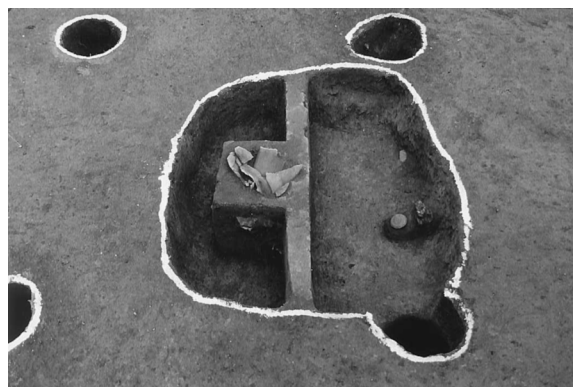
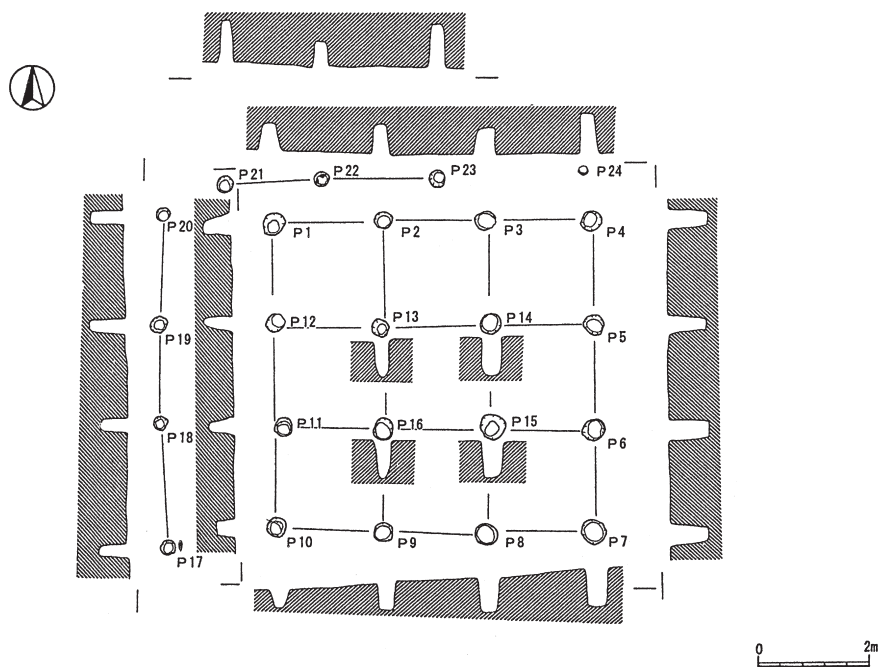


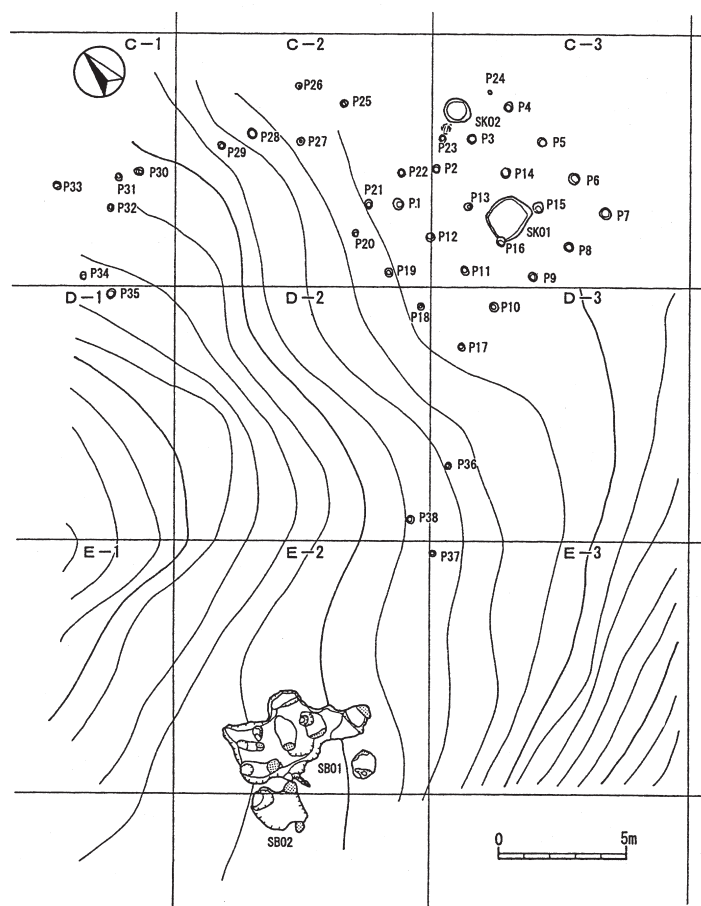
写真1 土坑検出状況



写真2 掘立柱建物跡発掘状況



第2図 掘立柱建物跡実測図



第3図 遺構配置図